

みんなでステップアップ

吹奏楽楽器別教本

クラリネット

CONTENTS

第1章

楽器と演奏の基本

- 1 楽器 2
- 2 上達へのカギ 4

第2章

基礎トレーニング

- 1 ロングトーン 5
- 2 音階と分散和音の練習 7

第3章

練習曲

- 1 単旋律 16
- 2 二重奏 20
- 3 四重奏 22

第1章

楽器と演奏の基本

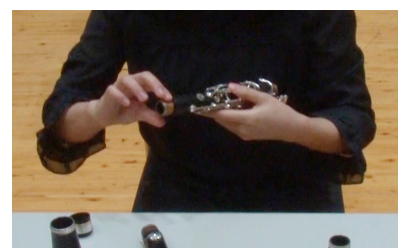
1 楽器



● 組み立て方

a. グリスを塗る

各ジョイントにグリスを薄く塗ります。毎回塗る必要はありません。組立のときにジョイントが固い感じがしたり、指で触って乾燥しているようでしたら塗りましょう。



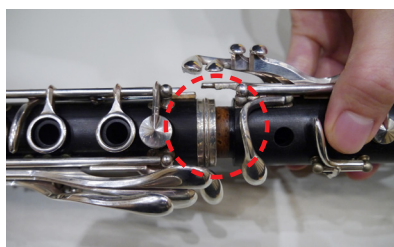
b. 組み立て

組み立てるときには、キーに無理な力が入らないように注意して持ちましょう。

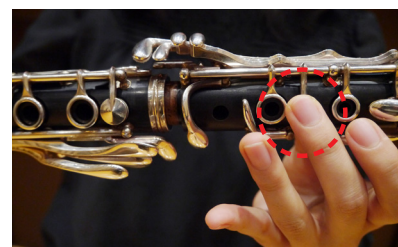
上管と下管はジョイントに注意です。上管の真ん中のキーをおさえて、ジョイントのキーが上がった状態を確認してから組み立てましょう。



× 閉じている状態：このまま組み立て続けるとジョイントが干渉します



○ 開いている状態：この状態になっているのを確認して差し込みます



このように上管真ん中のキーをおさえ、ジョイントの重なるキーを開けます

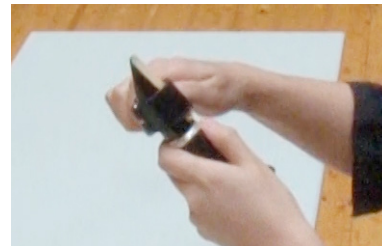
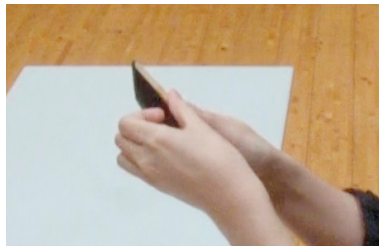
● リードの付け方

a. リードの先端を湿らせます。

b. マウスピースにセットします。

マウスピースの先端に重なるか、少し黒い部分が見えるくらいの高さです（吹き心地によって微調整します）。

c. リガチャーを締めます。締め過ぎずゆるすぎず、でもリードが動かない強さで締めましょう。



● メンテナンス

クラリネットの素材は、アフリカ原産のグラナディアという木です。

湿度や温度の変化には非常に敏感で、急激な湿度や温度変化は管体の“割れ”の原因になります。微小な割れは修理ができますが、大きなものだと吹奏不能になりますので注意が必要です。

注意点

- ・演奏後や長時間休憩する前は、水分をしっかりと拭き取ってケースにしまいましょう。
- ・トーンホール、ジョイントの水分も忘れずにチェック。
- ・空調の風が直接当たるところに置かないようにしましょう。
- ・直射日光は避けてください。
- ・外気温度と室内温度に差があるときはいきなり吹かずに、楽器の温度が室温と同じなるのを待ちましょう。（例：冬の寒いところを運んできて室内が暖かい場合、など）
- ・キーのバランス（ふさがり）は調整が狂いやすいので、定期的に楽器店にチェックを依頼してください。

● 構え方



● アンブシュア



○下唇は下の歯にかぶせます。上の歯はマウスピースに直接触れません。



○唇でマウスピースを包むように（噛まない）



×良くない例：上下の唇が前に出すぎてしまうとマウスピースをしっかりと支えられません

2 上達へのカギ

● 楽譜と向き合う

楽譜のルールを覚えて、どんな時でもルールを守りましょう。

演奏中は常に拍子を数えます。スラーがあればつなげて演奏し、なければタンギングで演奏します。

楽譜に「ドレミ」の仮名を振ることを習慣化してはいけません。一日も早く仮名振りから卒業する努力をしてください。

また、楽譜が見えなくなるような書き込みは論外です。

CDなどで音を聞いてリズムを把握しないでください。必ず先に楽譜で把握して、CDは確認のためにとどめましょう。もし読み間違いがあれば、その理由を論理的に考えます。

楽譜に書かれている音を勝手に抜いて、息継ぎや休憩をしてはいけません。息継ぎの場所はすべて先に決めておき、毎回同じように演奏します。

吹きながら、常に心で「ドレミ」を言う習慣をつけます。ただし異名同音を読み替えないように。

ラ# はシ♭ではありませんし、シ# はドではありません。

● 道具の正しい使い方

メトロノームやチューナーはあくまでも「支援ツール」です。補助輪を使っていると普通の自転車には乗れないように、いつまでも道具に頼っていると上達できません。道具から離れても同じようにできる能力を、一刻も早く身につけることを念頭に入れておきましょう。

第2章

基礎トレーニング

1 ロングトーン

● 目的

いろいろな高さの音を伸ばしてみることで、音域ごとに適切な身体の使い方（姿勢やアンブシュア、息の使い方など）を発見し、覚え込ませましょう。この教材では同時に舌の使い方も覚えます。

音をきれいにしたり音程を正確にするための練習ではありませんので、この点はよく注意してください。ただし、結果的に音がきれいになったり、音程がよくなったりすることは起こり得ます。

● 教材の使い方

毎日すべての音や、練習パターンを取り上げる必要はありません。何日かかけて一周するようなメニューを組むとよいでしょう。特定の音高やパターンにかたよった練習にならないように、考えてください。

一部の音階で、五線の上に「」で囲まれた部分があります。この音域では、右手の中指～小指および左手の薬指（楽器によって違います）を必ず押さえる癖をつけましょう。この癖は、音階の演奏でも楽曲の演奏でも、どのようなときにでも常に反射的に手が出るまでに習熟しておくことが重要です。

● 何ができればよいのか／どうなるといけないのか

どのパターンでも、音色や音量や音程が均一にコントロールされて、それを持続しても疲れのないような方法が見つかればよいでしょう。

音がふらついたり、身体の一部が疲れたり痛くなるような状態であれば、改善を考えてください。均一さを客観的に計測するために、チューナーを使用することは有効です。

● 基礎奏法（これをP.6 a～iのパターンで練習します）

<下行型>

♩=60



<上行型>

♩=60

●練習パターン a~i

(a) *mf* (b) *ff* (c) *pp* (d) *ff*

(e) *ff* (f) *ff* (g) *ff*

(h) 6 (i) 6

※ ○ は「dal niente, al niente」の記号です。

「音のない状態から開始して *cresc.* して、音が消えるまで *dim.* する」という意味です。

2 音階と分散和音の練習

● 目的

音階とは、さまざまな楽曲の中で頻繁に出現する音型（パーツ）を、体系的に集めたものです。楽曲に先んじて練習しておいて、個々の楽曲での練習時間を減らすのが目的です。

楽曲で速いパッセージに遭遇したときに「○○調の音階だ」と反射的に気づくことができるようになれば、基礎練習を実用化している証拠です。

● 教材の使い方

最初のうちは特定の調を丹念に練習し、ひとつずつ丸暗記します。少しずつ調性を増やし、最終的には全調を丸暗記してください。

● 何ができればよいのか／どうなるといけないのか

すべての音が均一でロングトーンと同じように鳴り、なめらかに繋がるように演奏します。そして、楽譜を見る必要がなくなればよいでしょう。

特定の音が飛び出したり、鳴らなかったり、速さがコントロールできていない（転ぶ）場合や、楽譜を見る必要がある場合は、できているとは言えません。

● 練習方法の工夫

難しい部分を切り出してくり返したり、リズムを変える練習はよい工夫です。日によって、速さ・強弱・アーティキュレーションを変えることで対応力を養うことができます。

初心者の場合は高音をカットして練習することも必要ですが、なるべく早い時期に全音域で練習できるように努力してください。

■ 音階

♩ = 60 ~ 120

ハ長調 (C dur)



イ短調 (a moll)



ト長調 (G dur)



ホ短調 (e moll)



二長調 (D dur)



口短調 (h moll)



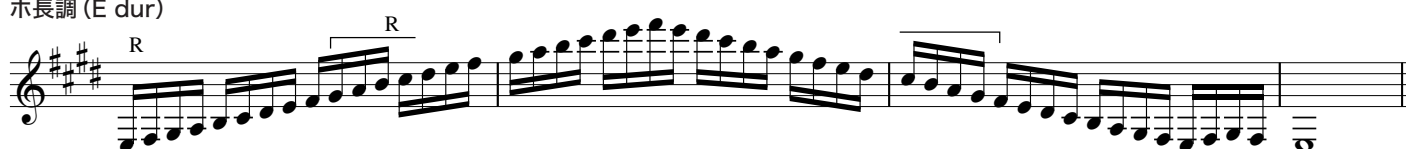
イ長調 (A dur)



嬰へ短調 (fis moll)



ホ長調 (E dur)



嬰八短調 (cis moll)



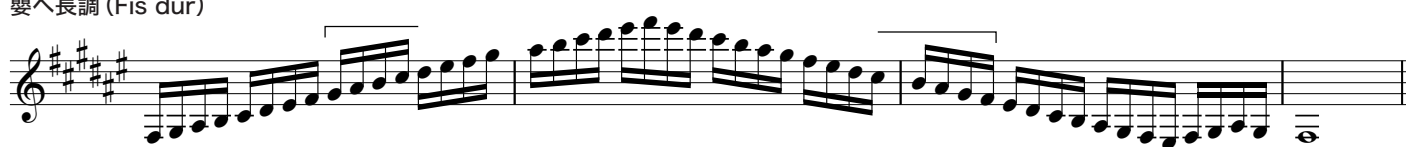
口長調 (H dur)



嬰卜短調 (gis moll)



嬰へ長調 (Fis dur)



嬰二短調 (dis moll)



変二長調 (Des dur)



変口短調 (b moll)



変イ長調 (As dur)



へ短調 (f moll)



変ホ長調 (Es dur)



ハ短調 (c moll)



変口長調 (B dur)



ト短調 (g moll)



へ長調 (F dur)



二短調 (d moll)



■ 長三和音

八長調 (C dur)



イ短調 (a moll)



ト長調 (G dur)



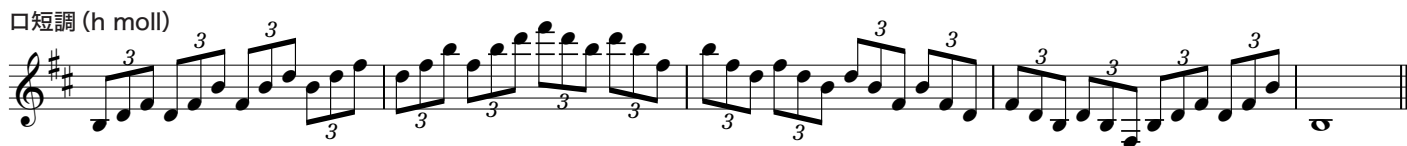
ホ短調 (e moll)



ニ長調 (D dur)



ロ短調 (h moll)



イ長調 (A dur)



嬰へ短調 (fis moll)



ホ長調 (E dur)



嬰ハ短調 (cis moll)



ロ長調 (H dur)



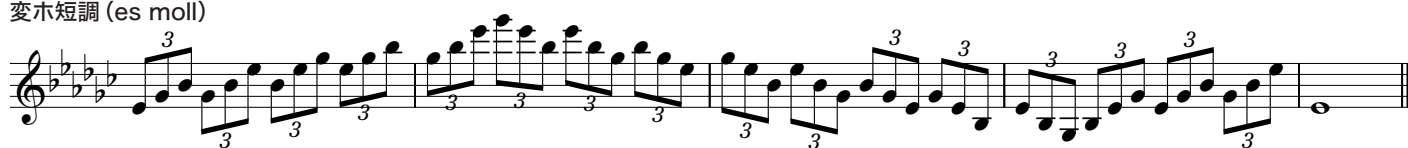
嬰ト短調 (gis moll)



変ト長調 (Ges dur)



変ホ短調 (es moll)



変ニ長調 (Des dur)



変ロ短調 (b moll)



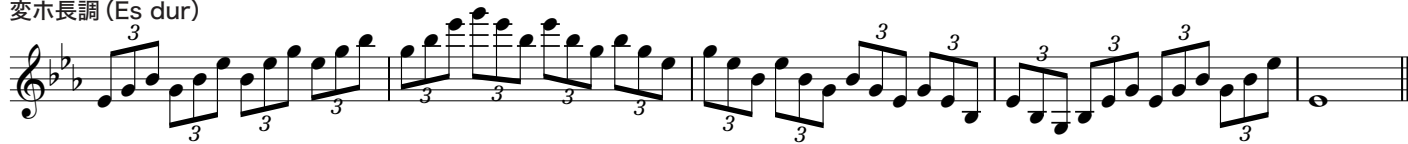
変イ長調 (As dur)



ヘ短調 (f moll)



変ホ長調 (Es dur)



ハ短調 (c moll)



変ロ長調 (B dur)



ト短調 (g moll)



ヘ長調 (F dur)



ニ短調 (d moll)



■ 属七の和音

ハ長調 (C dur)



ト長調 (G dur)



ニ長調 (D dur)



イ長調 (A dur)



ホ長調 (E dur)



ロ長調 (H dur)



嬰ヘ長調 (Fis dur)



変ニ長調 (Des dur)



変イ長調 (As dur)



変ホ長調 (Es dur)



変ロ長調 (B dur)



ヘ長調 (F dur)



■ 三度の和音

ハ長調 (C dur)



イ短調 (a moll)



ト長調 (G dur)



ホ短調 (e moll)



ニ長調 (D dur)



ロ短調 (h moll)



イ長調 (A dur)



嬰ヘ短調 (fis moll)



変ホ長調 (Es dur)



ハ短調 (c moll)



変ロ長調 (B dur)



ト短調 (g moll)



ヘ長調 (F dur)



ニ短調 (d moll)



第3章 練習曲

1 単旋律

● 目的

楽曲を演奏するために不可欠なルールを覚えて、それに慣れることが重要です。楽譜から楽曲の内容を考え、表現に結びつける訓練をしてください。

● 教材の使い方

練習曲によって難易度が違いますから、習熟度に合った曲を選択しましょう。大切なのは背伸びをすることではなく、余裕を持って確実に演奏することです。各曲冒頭に書かれている発想・速度の楽語の意味は必ず調べて、**練習曲の雰囲気や適切な速さについて自ら考えましょう。**

楽語の和訳もMM記号も、あえて記していない意味を理解してください。楽語の後に練習曲ごとのテーマを記しました。最低限習熟すべき目標として、このテーマは必ず頭に入れておきましょう。

● 何ができればよいのか／どうなるといけないのか

楽語・記号・アーティキュレーションなど、書かれた情報をすべて踏まえた上で、積極的な音楽表現を行っていればよいでしょう。

楽譜を正しく読んでいない場合や、機械的に楽譜を守るだけの演奏になっている場合は、できているとは言えません。

2 二重奏

● 目的

自律した拍勘定を習慣にし、楽譜を守ることを覚えましょう。他パートの音を心で歌いながら、自分のパートを演奏できるように訓練してください。

● 教材の使い方

必ずしも同族楽器で演奏する必要はありません。任意の友人と演奏したり、時には人を入れ替えながらアンサンブルを楽しむことは、大きな成長につながります。さまざまな楽器の組み合わせで演奏すべきですが、下段パートの音が上段パートの音よりも高くないような組み合わせにします。

後半の練習曲は、一部の楽器にとって難易度が高い内容です。無理をせず適切な難易度を選択し、確実な演奏を心掛けましょう。

● 何ができればよいのか／どうなるといけないのか

練習曲に対する音楽的イメージをふたりで共有し、互いに自律して楽しく演奏できればよいでしょう。

相手に釣られたり相手に拍勘定を依存したり、どちらかが待つ・端折るなどの無理をして成立する、という状態になってはいけません。

● 練習方法の工夫

自律して正しく演奏できている者同士であれば、初めての相手とでも最初から合うはずですが、次々と交代しながら、時には他校の生徒と合わせてみたりすることは非常に効果的な練習です。自らの演奏を録音して客観的に聴いてみると、とてもよい勉強になります。

3 四重奏

● 目的

二重奏で学んだことに加え、より複雑化した動きへの対応や、パート毎のバランスを取ることで、音程を正しく取ることを覚えましょう。

● 教材の使い方

必ずしも同族楽器で演奏する必要はありません。人を入れ替えながらの演奏が非常に有効なのは、二重奏と同じです。ただし最下段の音が、他の3段の音よりも高くなってしまうのは避けなければいけません。上3段の音の上下関係は入れ替わっても構いませんが、主旋律が隠れてしまわないように演奏上の工夫をしてください。

なお、この上下関係の原則は調性音楽すべてに言えることです。

● 何ができればよいのか／どうなるといけないのか

二重奏で学んだことに加え、聴き手が常に旋律を耳で追えるようなバランスや、音程が正しく取れていることに注意するとよいでしょう。

● 練習方法の工夫

次々とパートを交代しながら演奏して、他パートの立場を常に考える習慣をつけてください。

メトロノームを使った練習は非常に危険です。使用は限られた場合にとどめるべきでしょう。

1 単旋律

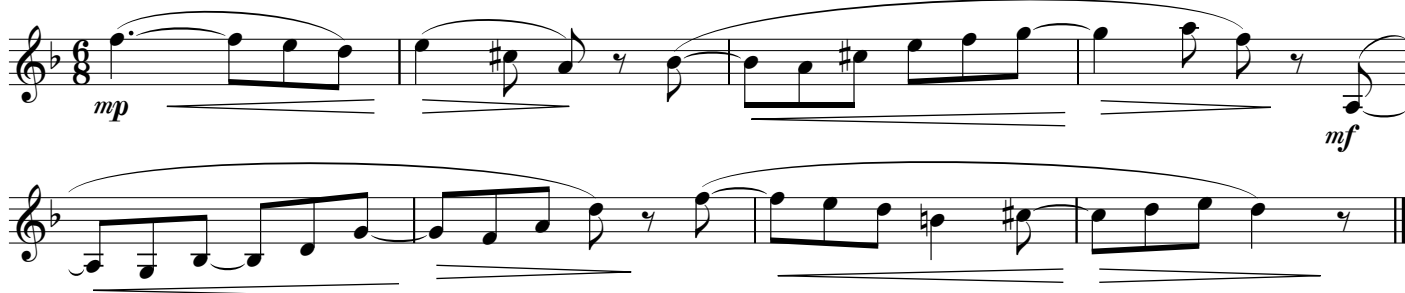
Moderato 4分音符と2分音符



Menuetto 付点音符と8分音符



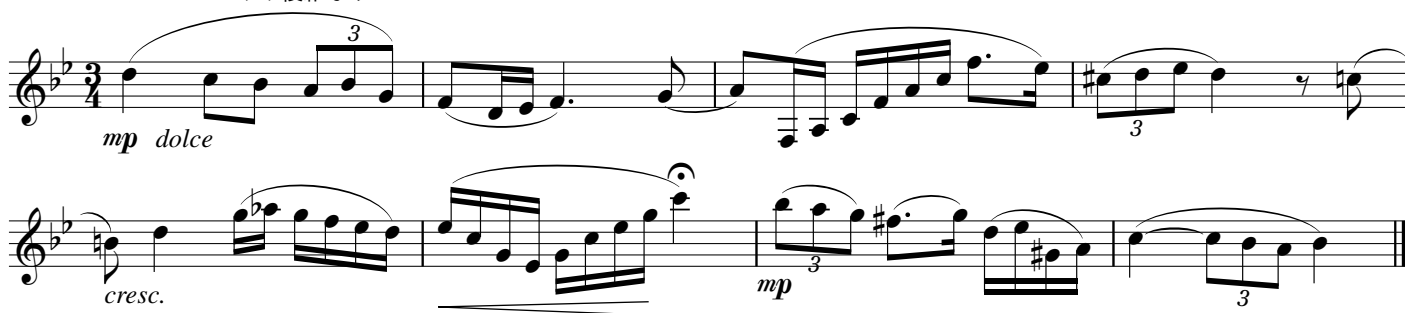
Andante タイと複合拍子



Allegretto 基本的なタンギング



Andantino やや複雑なリズム



Allegro moderato 跳躍



Alla breve, allegro vivo 速いタンギング



Vivace アーティキュレーション (切る、つなぐ)



Adagio 複雑な複合拍子 (大きな 3 拍子)



Menuetto 前打音、後打音、トリルなど



Presto 正確なまま、できるだけ速く

Musical score for the **Presto** section, measures 1 through 12. The music is written in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a time signature of 12/8. The first measure starts with a *mf* (mezzo-forte) dynamic. The score consists of four staves. The first staff contains measures 1-4, the second staff contains measures 5-8, the third staff contains measures 9-10, and the fourth staff contains measures 11-12. The music features rapid sixteenth-note passages, often beamed in groups of four, with various accidentals (sharps, flats, naturals) and slurs indicating phrasing. The final measure ends with a double bar line.

Allegro ma non troppo つなぐ、切る、保つ

Musical score for the **Allegro ma non troppo** section, measures 1 through 6. The music is written in treble clef with a key signature of two flats (Bb, Eb) and a common time signature (C). The first measure starts with a *mf* (mezzo-forte) dynamic. The score consists of three staves. The first staff contains measures 1-2, the second staff contains measures 3-4, and the third staff contains measures 5-6. The music features eighth-note and sixteenth-note passages, often beamed in groups, with various accidentals and slurs. The final measure ends with a double bar line.

練習メモ

2 二重奏

Moderato 音は違うが、舌を突くのは同じ場所、だから合う

Allegro vivace 同じ速さ、同じ長さ

Tempo di Valse 別々の動きは、拍子感を共有することで合わせる

Andantino 自律してそれぞれが正確に数えれば、簡単に合う

Allegretto 2拍子に聞こえても3拍子で数えること

Alla polacca 舞曲独特の崩れた拍節感

Allegro vivo 古典的装飾とアルベルティバス

3 四重奏

Moderato

Musical score for Moderato, 4 staves. The tempo is marked *Moderato*. The dynamics are marked *mp* (mezzo-piano) for all parts. The score consists of four staves, each with a treble clef and a common time signature. The music features a mix of half notes, quarter notes, and eighth notes, with some measures containing rests. The first staff has a melodic line, while the other three staves provide harmonic support with chords and moving lines.

Andante

Musical score for Andante, 4 staves. The tempo is marked *Andante*. The dynamics are marked *mp* (mezzo-piano) for all parts. The score consists of four staves, each with a treble clef and a 3/4 time signature. The music features a mix of half notes, quarter notes, and eighth notes, with some measures containing rests. The first staff has a melodic line, while the other three staves provide harmonic support with chords and moving lines.

Adagio

Musical score for Adagio, 4 staves. The tempo is marked *Adagio*. The dynamics are marked *p* (piano) for all parts. The score consists of four staves, each with a treble clef and a 3/4 time signature. The music features a mix of half notes, quarter notes, and eighth notes, with some measures containing rests. The first staff has a melodic line, while the other three staves provide harmonic support with chords and moving lines.

Allegro giusto

Musical score for Allegro giusto, 4 staves. The tempo is marked *Allegro giusto*. The dynamics are marked *f marcato* (forte marcato) and *mf* (mezzo-forte) for all parts. The score consists of four staves, each with a treble clef and a 6/8 time signature. The music features a mix of eighth notes, quarter notes, and half notes, with some measures containing rests. The first staff has a melodic line, while the other three staves provide harmonic support with chords and moving lines.

Allegro

The musical score is divided into four systems, each containing four staves. The notation includes various musical symbols such as notes, rests, beams, and slurs. Dynamics are indicated by letters like *f*, *mp*, *p*, *sf*, and *pp*. Articulations like accents and slurs are used throughout. The score includes a variety of rhythmic patterns, including eighth and sixteenth notes, and rests. The key signature is one flat (B-flat), and the time signature is common time (C). The tempo is marked as **Allegro**. The score concludes with a *rit.* (ritardando) marking and a final *a tempo* section.

System 1: Starts with *f* dynamics. The first staff has a *mp* dynamic. The second staff has a *f* dynamic. The third staff has a *mp* dynamic. The fourth staff has a *f* dynamic.

System 2: The first staff has a *mp* dynamic. The second staff has a *f* dynamic. The third staff has a *mp* dynamic. The fourth staff has a *mp* dynamic.

System 3: The first staff has a *pp* dynamic. The second staff has a *p* dynamic. The third staff has a *cresc.* dynamic. The fourth staff has a *cresc.* dynamic.

System 4: The first staff has a *f* dynamic. The second staff has a *mp* dynamic. The third staff has a *mp* dynamic. The fourth staff has a *mp* dynamic.

◆著者プロフィール

中村克己 (なかむら かつみ)

クラリネット奏者、作曲家、編曲家。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て、同大学院音楽研究科修了(器楽クラリネット)。クラリネットを海川雅富、山本正治、村井祐児、鈴木良昭、三界秀実の各氏に、和声法、対位法、作曲を遠藤雅夫氏に師事。

演奏活動の傍ら、「クラリネット・ソロのための変奏練習曲」「3つの小品」「幻想曲」などの作品、「クラリネットサンド」「バグパイプファンタジー」などの冗談音楽、音大生向けの教育作品、中高生の吹奏楽やアンサンブル作品の編曲など多くの楽譜を執筆している。東京藝術大学音楽学部、同附属音楽高等学校などの非常勤講師を経て、現在、聖徳大学音楽学部准教授、昭和音楽大学非常勤講師。

映像

演 奏 Ensemble Escargot アンサンブル・エスカルゴ
(須東裕基、福島広之、西澤いずみ、吉野美香)

指 導 山本正治

撮影・編集 鈴木勝貴、齋藤 峻

みんなでステップアップ～吹奏楽楽器別教本 クラリネット

編 著 中村克己

制作統括 横田揺子

助 成 子どもゆめ基金

制 作 一般社団法人日本クラリネット協会

発 行 一般社団法人日本クラリネット協会
〒164-0013 東京都中野区弥生町4丁目6-13 ヤックビル3F

発 行 2016年1月31日

©2016 Japan Clarinet Association